

ご説明資料

柏崎刈羽原子力発電所
成立性確認訓練（シーケンス訓練・大規模損壊訓練）の計画について

2020年9月4日
東京電力ホールディングス株式会社

0.本日の説明内容

重大事故等訓練、大規模損壊訓練の

1. 訓練内容について
2. 訓練手順、実施方法（評価基準など）
3. 体制
4. スケジュール

1. 訓練内容について（成立性確認訓練の選定）

【対象】

- 有効性評価で選定した重要事故シーケンス23項目のうち、「シーケンス訓練が中操主体か現場操作主体か」で分類を行い、さらに「シーケンス・操作の類似性及び網羅性を考慮」して分類した重要事故シーケンスの5つの事象を選定
- 成立性確認訓練は、類似性の観点から整理したⅡまたはⅢの重要事故シーケンスに、Ⅰ、Ⅳ及びⅤの重要事故シーケンスのうち現場で実施する個別手順を加え、**年1回以上**訓練を実施する計画。
- Ⅱ及びⅢは原子炉の除熱手段の違いだけであることから隔年で実施し、除熱項目のみ個別訓練（※）を実施。

【重要事故シーケンスの5つの事象】

Ⅰ：全交流動力電源喪失（SRV主蒸気逃がし安全弁再閉失敗）

Ⅱ：**雰囲気気圧力・温度による静的負荷**
（格納容器過圧破損・代替循環冷却を使用する場合）

Ⅲ：**雰囲気気圧力・温度による静的負荷**
（格納容器過温破損・代替循環冷却を使用しない場合）

Ⅳ：使用済燃料プールにおける重大事故に至るおそれがある事故（想定事故2）

Ⅴ：全交流動力電源喪失（運転停止中）

※：除熱項目のみ個別訓練とは、代替熱交隊・FV隊の訓練が該当

<参考> 重要事故シーケンスから抽出された5つの事象

重要事故シーケンス		■ : 中央制御室主体	■ : 現場主体
運転中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故	1	高圧・低圧注水機能喪失	
	2	高圧注水・減圧機能喪失	
	3	全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG喪失）	
	4	全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG喪失+RCIC喪失）	
	5	全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG喪失+直流電源喪失）	
	6	全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG喪失+SRV再閉失敗）	
	7	崩壊熱助教機能喪失（取水機能が喪失した場合）	
	8	崩壊熱除去機能失敗（残留熱除去が故障した場合）	
	9	原子炉停止機能	
	10	LOCA時注水機能喪失	
	11	格納容器バイパス（インターフェイスシステムLOCA）	
運転中の原子炉における重大事故	12	雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）代替冷却を使用する場合	
	13	雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）代替冷却を使用しない場合	
	14	高圧溶融物放出／格納容器雰囲気直接加熱	
	15	原子炉圧力容器外の溶融燃料－冷却材相互作用	
	16	水素爆発	
	17	溶融炉心・コンクリート相互作用	
SFPにおける重大事故に至るおそれのある事故	18	想定事故1（燃料プールの冷却機能又は注水機能が喪失する事故）	
	19	想定事故2（サイフォン効果によるプール水の小規模な喪失）	
運転停止中の原子炉における重大事故に至るおそれがある事故	20	崩壊熱除去機能喪失	
	21	全交流動力電源喪失	
	22	原子炉冷却材の流出	
	23	反応度の誤投入	

シーケンス訓練が中操主体か現場操作主体かで分類

1
2
7
8
9
10
11
20
22
23
3
4
5
6
12
13
14
15
16
17
18
19
21

シーケンス・操作の類似性及び網羅性を考慮して分類

- 3～6は類似の起因事象で、現場操作は同一
→事象進展の早い**6で代表**
- 12と13は同一事象であるが現場対応手段が異なる
→**両方とも机上訓練を実施**
- 14～17の現場操作については全て12に踏襲されている
→**12で代表**
- 18と19は類似の起因事象で現場操作は同一
→事象進展の早い**19で代表**

机上訓練による成立性確認	
6→I	全交流動力電源喪失（外部電源喪失+DG喪失+SRV再閉失敗）
12→II	雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）代替冷却を使用する場合
13→III	雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧・過温破損）代替冷却を使用しない場合
19→IV	想定事故2（サイフォン効果によるプール水の小規模な喪失）
21→V	全交流動力電源喪失

全ての緊急時対策要員が机上にて5つのシーケンスについて成立性確認を実施する事で、現場操作の動き及び連携の成立性を確認する。

1. 訓練内容（重大事故の訓練）

✓ 力量維持のための教育訓練を行い、要素訓練、机上訓練を経て最終的に全体の成立性の確認訓練を行う計画。

力量の維持向上のための教育訓練

①
表1～19の対応訓練
(個別訓練)自主設備
含めた全手順

年1回以上※

②
挙動・状況把握・対応
の教育
(Eラーニング)

年1回以上

③
重大事故の内容・対
処方法等の教育(E
ラーニング)

年1回以上

④
プラント状況の把握・
的確な対応操作の選
択等の総合的な訓練
(緊急時演習)

年1回以上

※ 年1回の実施頻度では力量の維持が困難と判断される教育訓練項目については、教育訓練を年2回以上実施する。

成立性の確認訓練

①
中央制御室主体の操
作に係る成立性確認
訓練
(シミュレータ訓練)

年1回以上

②
技術的能力の成立性
確認訓練
(要素訓練)シーケ
ンス訓練に係る手順

年1回以上

③
机上訓練による有効
性評価の成立性確
認訓練(図上演習)

年1回以上

④
現場訓練による有効
性評価の成立性確認
訓練(シーケンス訓練)

年1回以上

1. 訓練内容（大規模損壊の教育訓練）

✓ 力量維持のための教育訓練を行い、技術的能力の確認訓練を行う計画。

力量の維持向上のための教育訓練

①

航空機燃料火災を想定した消火訓練
(消火訓練)

年1回以上

②

緊急時対策本部指揮者等による指揮命令系統訓練
(指揮者訓練)

年1回以上

③

要員の多能化

計画的に

技術的能力の確認訓練

①

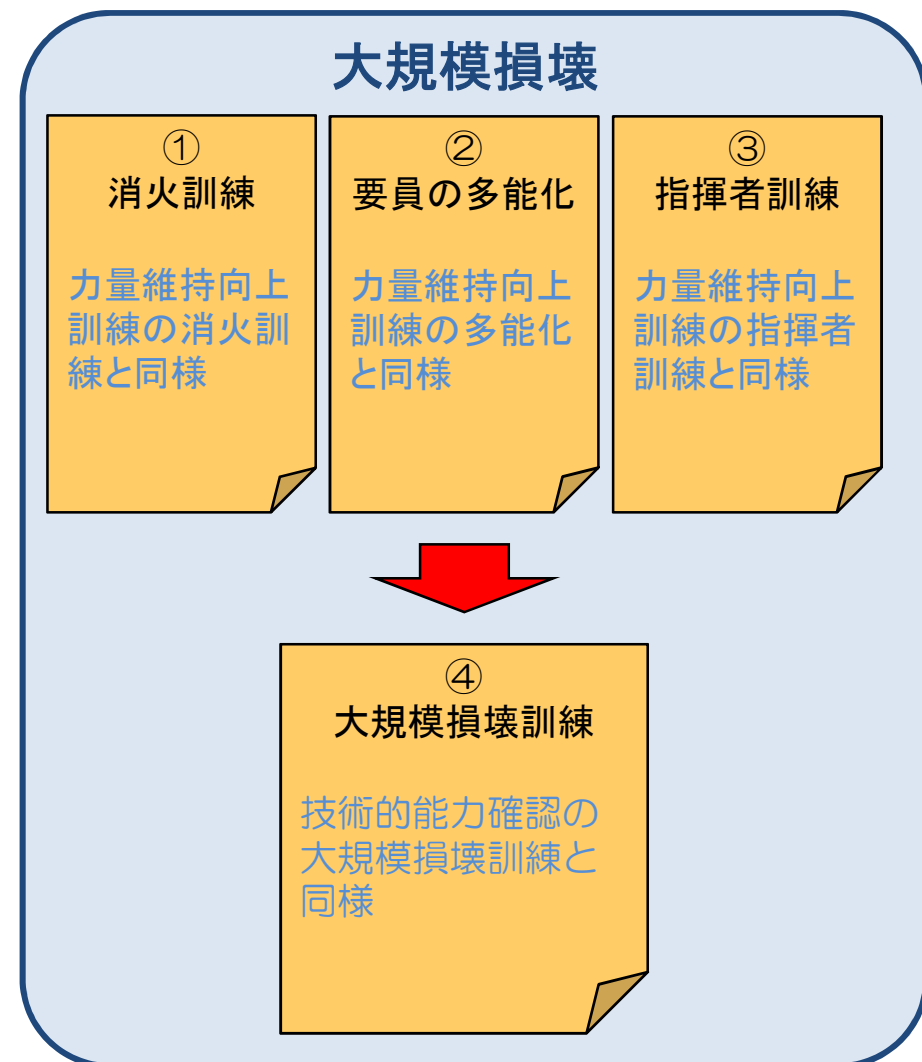
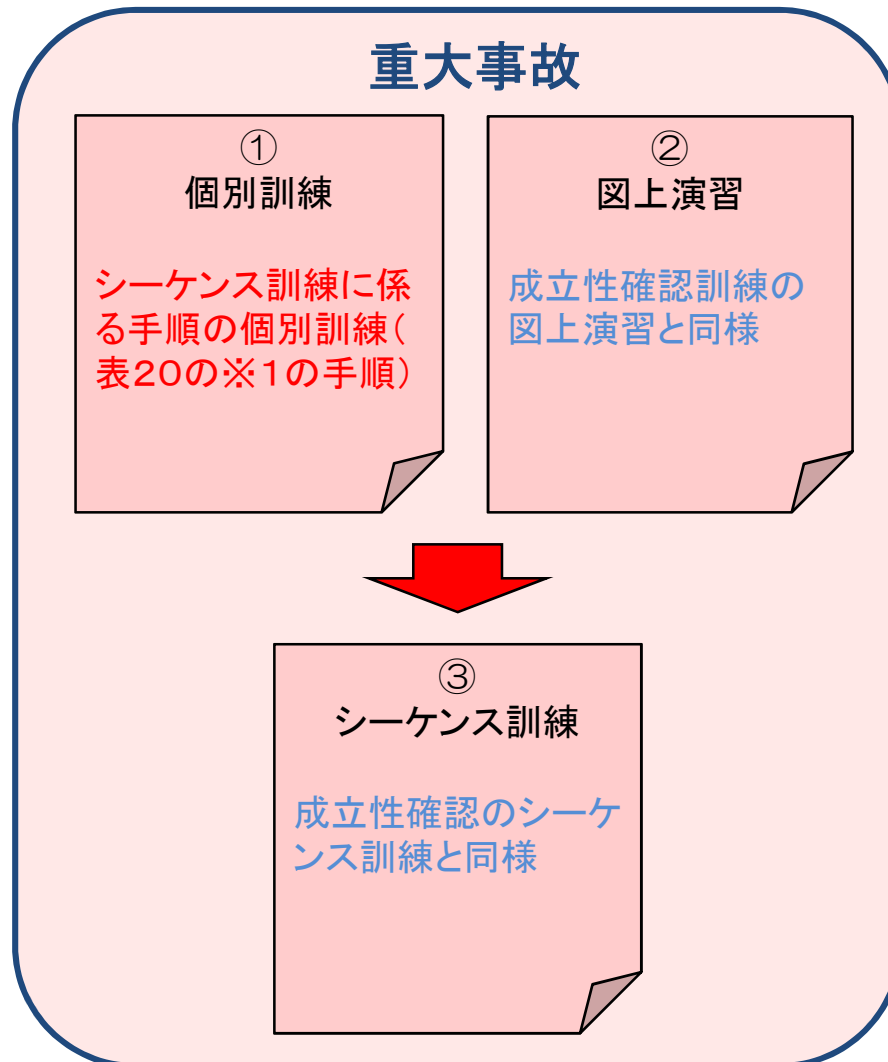
大規模損壊発生時の対応に係る総合的な訓練
(大規模損壊訓練)

年1回以上

1. 訓練内容（力量付与訓練）

－ 訓練項目と頻度 －

✓ 力量の付与のための教育訓練 – 全体イメージ –



2. 訓練手順、実施方法（評価基準など）

シーケンス訓練における**運転員**の使用手順については以下の通り。

操作項目		手順書
運転員 (1/2)	状況判断 全交流動力電源喪失確認 原子炉スクラム, タービントリップ確認	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（徴候ベース） ・原子炉制御 RC「スクラム」
	格納容器内水素濃度監視	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） ・SOP-2「PCV制御」
	常設代替交流電源による受電	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（徴候ベース） ・PS/R「交流/直流電源供給回復」
	非常用高圧母線D受電	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 ・①電源確保戦略 第一ガスタービン発電機起動（①-2-1）
	非常用高圧母線C受電	
非常用ガス処理系運転	非常用ガス処理系運転確認・監視	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（徴候ベース） ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 ・PS/R「交流/直流電源供給回復」 ・⑭その他戦略 SGTS（A（B））によるR/B負圧維持及び放射性物質除去（⑭-12（13）-1）
低圧代替注水系（常設）による原子炉注水操作	復水移送ポンプ起動・運転確認 低圧代替注水系（常設）系統構成	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 ・SOP-1「RPV制御」 ・③Rx注水戦略 MUWCによる原子炉注水（③-1-3-1）

2. 訓練手順、実施方法（評価基準など）

シーケンス訓練における**運転員**の使用手順については以下の通り。

	操作項目		手順書	
運転員 (2/2)	代替格納容器スプレ イ冷却系（常設） による格納容器スプレ イ操作	代替格納容器スプレ イ系冷却系（常 設）系統構成	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOP-2「PCV制御」 ・⑤格納容器スプレイ戦略 MUWCによるPCVスプレイ（⑤-2-1）
	代替原子炉補機冷却系起動	代替原子炉補機冷却系現場系統構成	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOP-2「PCV制御」 ・⑧代替除熱戦略 代替Hxによる補機冷却水（A（B））確保（⑧-3（4）-1）
	格納容器内雰囲気モニタ系（水素・酸素濃度計）起動	CAMS水素・酸素濃度計起動・状態監視	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOP-1「RPV制御」
	低圧代替注水系（可搬型）による原子炉注水	系統構成（中操、現場）	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOP-1「RPV制御」 ・③Rx注水戦略 消防車による原子炉注水（③-1-5-1）
	代替循環冷却系運転操作	代替循環冷却系系統構成（中操、現場） 代替循環冷却系起動・状態監視	<ul style="list-style-type: none"> ・6（7）号機 事故時運転操作手順書（シビアアクシデント） ・6（7）号機 AM設備別操作手順書 	<ul style="list-style-type: none"> ・SOP-2「PCV制御」 ・⑩格納容器除熱戦略 代替循環冷却系によるPCV内の減圧及び除熱（⑩-6-1）

2. 訓練手順、実施方法（評価基準など）

シーケンス訓練における**緊急時対策要員**の使用手順については以下の通り。

	操作項目		手順書	
緊急時対策要員	可搬型代替注水ポンプ（A-2級）による淡水貯水池から復水貯蔵槽への補給	可搬型代替注水ポンプ（A-2級）設置，ホース敷設，注水操作	・7号機 多様なハザード対応手順	
	給油（可搬型代替注水ポンプ（A-2級））	軽油タンクからタンクローリ（4k1）への補給	・共通 多様なハザード対応手順	・第3章 送水編 消防車によるCSPへの補給（淡水/海水）（K6(7)EHP-3-2-3）
		タンクローリから可搬型代替注水ポンプへの補給	・共通 多様なハザード対応手順	・第7章 燃料編 非常用D/G軽油タンクからタンクローリへの給油（共通EHP-7-1）
	代替原子炉補機冷却系起動	代替原子炉補機冷却系資機材配置，ホース敷設	・7号機 多様なハザード対応手順	・第7章 燃料編 タンクローリから各機器等への給油（共通EHP-7-2）
		代替原子炉補機冷却系起動・状態監視		
	給油（大容量送水車，電源車）	電源車，大容量送水車への給油	・共通 多様なハザード対応手順	・第7章 燃料編 タンクローリから各機器等への給油（共通EHP-7-2）
	低圧代替注水系（可搬型）による原子炉注水	可搬型代替注水ポンプ（A-2級）設置，ホース敷設，注水操作	・6（7）号機 多様なハザード対応手順	・第2章 注水編 消防車による送水（原子炉注水）（K6(7)EHP-2-1-3）
	給油（第一ガスタービン発電機）	軽油タンクからタンクローリ（16k1）への給油	・共通 多様なハザード対応手順	・第7章 燃料編 非常用D/G軽油タンクからタンクローリへの給油（共通EHP-7-1）
タンクローリから第一ガスタービン発電機への給油		・共通 多様なハザード対応手順	・第7章 燃料編 タンクローリから各機器等への給油（共通EHP-7-2）	

2. 訓練手順、実施方法（評価基準など）

有効性評価シナリオに則り、訓練の有効性を評価するため、必要な操作が完了すべき制限時間（ホールドポイント）を定め、制限時間内に対応が完了することを確認。

例：対象シーケンスⅡのホールドポイント

ホールドポイント	制限時間（事象発生からの経過時間）	ホールドポイントの内容
常設代替交流電源設備（第一ガスタービン発電機）からの給電操作	約25分	事象（全交流動力電源喪失）認知（事象発生後10分）から常設代替交流電源設備による給電準備を開始し、非常用M/Cの受電を開始する時間（約25分）までに対応できること。
非常用ガス処理系起動による原子炉建屋内負圧操作	約30分	常設代替交流電源設備による給電完了後、非常用ガス処理系を起動する時間（約30分）までに対応できること。
低圧代替注水系（常設）による原子炉注水操作	約70分	常設代替交流電源設備による給電完了後、低圧代替注水系（常設）による原子炉へ注水する時間（約70分）までに対応できること。
代替格納容器スプレイ冷却系（常設）による原子炉格納容器冷却操作	約120分	格納容器が限界温度に到達することを防止するため、格納容器温度が190℃に到達した時間（約120分）に対応できること。
代替原子炉補機冷却系運転操作	20時間	構外からの参集要員が到着（10時間）後、代替原子炉補機冷却系による補機冷却水を通水する時間（20時間）までに対応できること。
代替循環冷却系による格納容器の除熱操作	22.5時間	代替原子炉補機冷却系運転開始後、代替循環冷却系による格納容器の除熱を行う時間（22.5時間）までに対応を開始できること。

2. 訓練手順、実施方法（評価基準など）

対象シーケンスⅡ「雰囲気圧力・温度による静的負荷（格納容器過圧破損・代替循環冷却を使用する場合）」における訓練項目は以下の通り。

例：対象シーケンスⅡの訓練項目

訓練項目	想定時間	人数	訓練内容
1. 7 代替循環冷却系使用時における代替原子炉補機冷却系による除熱	540分	13人	①資機材配置及びホース敷設 ②起動及び系統水張り ③運転状態監視
1. 13 淡水貯水池を水源とした可搬型代替注水ポンプによる復水貯蔵槽への補給（あらかじめ敷設してあるホースが使用できない場合）	340分	6人	①消防車によるC S Pへの注水準備（消防車移動、ホース敷設・接続、ホース水張り） ②消防車によるC S Pへの補給
1. 14 常設代替交流電源設備による給電（非常用高圧母線D系受電）	20分	6人	①M/C7D受電準備 ②M/C7D受電
1. 14 常設代替交流電源設備による給電（非常用高圧母線C系受電）	50分	6人	①M/C7C受電準備 ②M/C7C受電
1. 14 燃料補給設備による給油（軽油タンクからタンクローリ（4k l及び16k l）への補給）	140分	2人	軽油タンクからタンクローリへの補給
1. 14 燃料補給設備による給油（タンクローリから第一GTG燃料タンクへの給油）	120分	2人	タンクローリから第一GTG燃料タンクへの給油

<参考> 重要事故シーケンス雰囲気圧力・温度による静的負荷 (格納容器過圧破損・代替循環冷却を使用する場合 (1/2))



操作項目	実施要員・必要人員数						操作の内容	経過時間 (分)		備考
	責任者		当番員		1人			中央監視室		
	指揮者	副指揮者	6名	当番員	1人	当番員		1人	緊急時対応要員	
状況判断	2A A, B	3A A, B	-	-	-	-	・ 格納容器の冷却水循環 ・ 炉内冷却水循環の監視 ・ 原子炉システム、タービン・トリップ監視	00	00	状況判断も事故対応に必要の作業を並行して実施する
交流電源回復操作 (解放上考慮せず)	-	-	-	-	-	-	・ 非常用ディーゼル発電機 稼働回復 ・ 非常用電源 回復	00	00	状況判断も事故対応に必要の作業を並行して実施する
高圧/低圧注水機能喪失調査、復旧 操作 (解放上考慮せず)	-	-	-	-	-	-	・ 給水機、原子炉冷却機等停止、高圧炉内注水機、非常用高圧注水機 稼働回復	00	00	状況判断も事故対応に必要の作業を並行して実施する
原子炉格納容器内水素濃度監視	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 原子炉格納容器内水素濃度監視	00	00	状況判断も事故対応に必要の作業を並行して実施する
常設代替交流電源設備稼働操作 (第一ガスタービン発電機)	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 第一ガスタービン発電機 起動	00	00	
常設代替交流電源設備運転 (第一ガスタービン発電機)	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 第一ガスタービン発電機 運転	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働 (中央監視室)	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ 燃料供給機稼働/回復	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ 廃炉稼働 ・ 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働 (電圧変動監視)	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ 廃炉稼働 ・ 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働 (コントローラ異常監視)	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ 廃炉稼働 ・ 非常用高圧注水機、D系、発電機稼働	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、C系、発電機稼働	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 非常用高圧注水機、C系、発電機稼働	00	00	
常設代替交流電源設備からの 非常用高圧注水機、C系、発電機稼働	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ 廃炉稼働 ・ 非常用高圧注水機、C系、発電機稼働	00	00	
非常用ガス給排系 運転稼働	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 非常用ガス給排系稼働 運転稼働 ・ 原子炉冷却機注水機 ・ 原子炉冷却機注水機	00	00	状況判断も事故対応に必要の作業を並行して実施する
低圧代替注水系 (常設) 標準操作	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 低圧代替注水機 (B, C) 稼働/運転監視 ・ 低圧代替注水機 (常設) 運転監視	00	00	状況判断も事故対応に必要の作業を並行して実施する
低圧代替注水系 (常設) 注水操作	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 廃炉稼働 ・ 低圧代替注水機 (常設) 稼働監視 ・ 低圧代替注水機 (常設) 運転監視	00	00	
代替格納容器スプレイ冷却系 (常 操作)	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 非常用高圧注水機、原子炉冷却機注水機	00	00	
中央制御室監視稼働 (解放上考慮せず)	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 非常用高圧注水機、原子炉冷却機注水機	00	00	状況を監視して対応する
中央制御室 圧力調整 (中央制御室可動型圧力調整機が コアユニット起動) (解放上考慮せず)	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ BCCS 稼働操作	00	00	状況を監視して対応する
中央制御室 圧力調整 (解放上考慮せず)	11A) A	11A) A	-	-	-	-	・ 中央制御室可動型圧力調整機がコアユニット起動 ・ 中央制御室可動型圧力調整機がコアユニット起動	00	00	状況を監視して対応する
格納容器冷却水注入操作 (解放上考慮せず)	-	-	11A) A, B	11A) A, B	-	-	・ 廃炉稼働 ・ 中央制御室可動型圧力調整機がコアユニット起動	00	00	状況を監視して対応する

<参考> 重要事故シーケンス雰囲気圧力・温度による静的負荷 (格納容器過圧破損・代替循環冷却を使用する場合 (2/2))



操作項目	実施要員・必要人員数												操作の内容	経過時間 (分)	備考
	運転員 (中央制御室)		運転員 (現場)		緊急時対応要員										
	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名				
低圧代替注水系 (常設) 注水操作	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	機器点検作業、注水準備	0	
代替格納容器スプレッド系 (常設) 過給	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	機器点検作業、スプレッド系準備	0	
異常発生時による原子炉格納容器過給	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	異常発生時、スプレッド系準備	0	
原子炉冷却注水 (開始上乗せせず)	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による原子炉への注水	0	
可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による注水時注水から復水貯蔵槽への補給	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による復水貯蔵槽への注水	0	
前記準備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による復水貯蔵槽への補給	0	
前記作業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による復水貯蔵槽への補給	0	
格納容器ベント準備操作 (開始上乗せせず)	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	格納容器ベント準備	0	
代替原子炉補給冷却系 準備操作	-	-	(2A)	(2A)	-	-	-	-	-	-	-	-	代替原子炉補給冷却系 準備操作	0	
前記準備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	代替原子炉補給冷却系 準備操作	0	
前記作業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	代替原子炉補給冷却系 準備操作	0	
原子炉格納容器内水質・融雪濃度計 (CAMS) 再起動	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	原子炉格納容器内水質・融雪濃度計 (CAMS) 再起動	0	
低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉注水・準備操作	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による原子炉への注水	0	
代替循環冷却系 準備操作 (系統開放)	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	代替循環冷却系 準備操作 (系統開放)	0	
代替循環冷却系 準備操作 (系統開放)	-	-	(2A)	(2A)	-	-	-	-	-	-	-	-	代替循環冷却系 準備操作 (系統開放)	0	
低圧代替注水系 (可搬型) による原子炉への注水	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	可搬型代替注水ポンプ (A-2機) による原子炉への注水	0	
代替循環冷却系 運転開始	(2A)	(2A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	代替循環冷却系 運転開始	0	
代替循環冷却系 運転状態監視	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	代替循環冷却系 運転状態監視	0	
異常発生時ベント前部 再稼 (開始上乗せせず)	(1A)	(1A)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	異常発生時ベント前部 再稼 (開始上乗せせず)	0	
前記準備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	異常発生時ベント前部 再稼 (開始上乗せせず)	0	
前記作業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	異常発生時ベント前部 再稼 (開始上乗せせず)	0	

※ 緊急時対応要員は、この表に示す人員数とは異なる。緊急時は「2人」以上。
① 内の準備は他の作業終了後、開始して対応する人員数。

3. 訓練体制

重大事故等に対処する要員のうち、以下が対象となる。

- ✓ シーケンス訓練：運転員は5班、復旧班は10班
- ✓ 大規模損壊訓練：本部は4班、自衛消防隊は3班

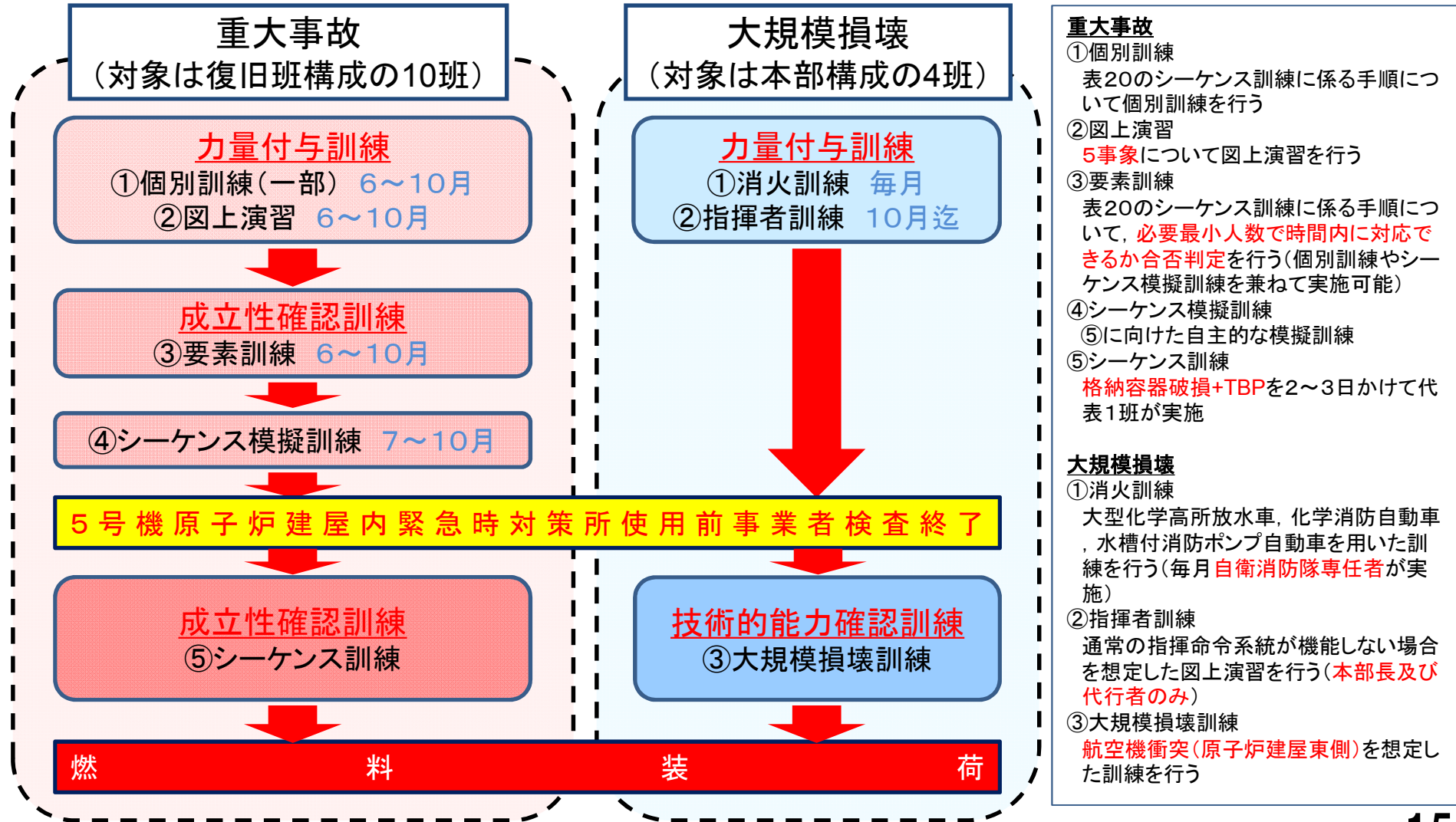


班名	A班	B班	C班	D班						
本部										
6号機復旧班長										
7号機復旧班長										
1~5号機復旧班長										
指令										
班長名	A1 ①班	A2 ②班	B1 ③班	B2 ④班	C1 ⑤班	C2 ⑥班	D1 ⑦班	D2 ⑧班	E1 ⑨班	E2 ⑩班
第一陣	注水班 (0-9)									
	給油班 (0-9)									
	瓦礫班 (0-9)									
第二陣	送水班 (0-9)									
	電源班 (0-9)									
	注水班 (停止班) (0-9)									

対象者全員に力量を付与した上で、くじ引きにより代表1班を選出する。

4.スケジュール

- ✓ 現在、重大事故・大規模損壊共に、力量付与訓練を実施中。
- ✓ 5号機TSC使用前事業者検査終了～燃料装荷前までに確認訓練を計画



- 重大事故**
- ①個別訓練
表20のシーケンス訓練に係る手順について個別訓練を行う
 - ②図上演習
5事象について図上演習を行う
 - ③要素訓練
表20のシーケンス訓練に係る手順について、必要最小人数で時間内に対応できるか合否判定を行う(個別訓練やシーケンス模擬訓練を兼ねて実施可能)
 - ④シーケンス模擬訓練
 - ⑤に向けた自主的な模擬訓練
 - ⑤シーケンス訓練
格納容器破損+TBPを2~3日かけて代表1班が実施

- 大規模損壊**
- ①消火訓練
大型化学高所放水車, 化学消防自動車, 水槽付消防ポンプ自動車を用いた訓練を行う(毎月自衛消防隊専任者が実施)
 - ②指揮者訓練
通常の指揮命令システムが機能しない場合を想定した図上演習を行う(本部長及び代行者のみ)
 - ③大規模損壊訓練
航空機衝突(原子炉建屋東側)を想定した訓練を行う